

ほんとに
運動して
よかった!



新制度実施1年で**前進**をかちとつた

札幌敬老パス 改善の運動

札幌敬老パス連絡会事務局長 **佐藤 宏和**さん (道生連事務局長)

歓声が わき起こった総会

二月二十四日(金)札幌敬老パスを守る連絡会の総会が開かれました。参加した誰もが「良かった、良かった」と喜んでいました。札幌市が、〇三年六月に「見直し」を表明してから〇五年四月に新制度をスタートさせるまでも、実施時期の延期、上限額の引き上げ、運用面での改善など成果を上げてきた「敬老パス」運動ですが、〇六年度からの改善には一年かけて粘り強く取り組んできたので格別な思いがありました。

新制度には 重大な欠陥が

〇五月四月からスタートした、新制度の特徴は二つあります。五段階の上限と二つの負担です。以前は無料パス制度でしたが、新制度では、利用限度額が設定(一万円〜五万円)されました。さらに、自己負担が導入され、最低一〇%から二〇%の額を負担することになりました。つまり五万円以内の一部

自己負担と五万円を超えた全額自己負担です。利用者から「おちおち外出も出来ない」と批判の声が上がったのは当然でした。

そして、一回カードを購入(三月)したら、追加購入も、余っても返還出来ないことになったのです。このことは、一年間の使用量を予測せよということであり、「高齢者に無理難題を押しつけて不安を与える」ものになりました。

〇五年三月の申請時には、区役所に四万件もの問い合わせがあり、一七〇〇件の利用額変更申請がされるなど、わかりづらい制度であることもはつきりしました。その上、実施直後の市民アンケートが、老人クラブや医療機関の協力を得て行なわれ、「外出抑制が始まっている」「老人クラブ行事、冠婚葬祭、ボランティア活動などを手控えるという結果になっている」こともわかりました。「大変なことだ」「何とかしなければ」と新たな決意がみなぎってきたのです。

「一元に戻せ」の基本 要求と、当面の 改善をにかけて

私達は、〇五年六月に連絡会の総会を開催。「実態アンケート」と「私の要望書」を

札幌敬老パス 改善の運動

まとめた結果を発表し、新たな市長要望書を決めました。

七月一二日には、代表二二人が、市保健福祉局横山理事に要望書を提出しました。

要望書には、①元の制度に戻すことが基本、②外出制限（抑制）の最大の原因は限度額設定にあるのでやめること。負担割合は一律にすべき、③年内の救済策として、限度額までの追加希望を認めること、年度を超えたカードの使い切りを認めること。を要望しました。

運動も活発にと、市長への団体要望書・個人請願書提出運動、議会へは、全議員にアンケート結果と市長要望書等を渡して懇談したのです。当局との交渉は六回にのぼり、マスコミにもずいぶん登場しました。

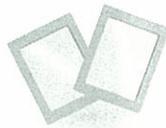
「見直しはしない」から
「改善します」への変化



強い改善の声が広がりを見せ、老人クラブ例会でも、市長の各区タウントーク（市長と話そう会）でもかならず話題になっていったのです。市議会で「見直しに賛成」した議員の中からも「改善が必要だな」という声も出るようになりました。

札幌市は、「二年目は検証期間」だとして、実施二年目からの改善には消極的でした。しかし、議会内外での改善の声が時間とともに高まりを見せ、ついに昨年一月市独自に七〇〇〇人アンケートを実施。連絡会アンケートと同じ結果でした。それを受けたという形で、市長が記者会見して、二つの改善を約束したのです。「利用限度額以内であれば追加交付する」「余ったら返還できる」という当面する二大改善要求が実現した瞬間でした。

「本当に運動して
よかった」
「さあ、今度は限度額を
なくすよー！」



北区老人クラブ役員の佐藤勢津子さん（七五歳）は、「うれしいです。我が家から中心街まで遠くて交通費もかかります。クラブのみんなも喜んでいきます。でも、無料に戻してほしいですね」とうれしさと期待をかみしめていました。

手放しに喜んでいいられません。「限度額五万円」が壁です。連絡会は、継続してとりくみをすすめることを決めました。もう一年最大の壁に挑戦することを決議したのです。

